

こしいぶきは7月9日頃が穂肥適期です

1 こしいぶきの6月29日現在の生育状況

○草丈はやや短く、茎数は多く、葉色は濃いです。

生育調査結果

調査日:6月29日

地区	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)
指標値	45	500	39.0
広神 山田下【気象感応ほ】 5月14日植え	42 指標比 84%	796 指標比 162%	42.6 指標差 +3.6

幼穂長による予想出穂期

調査日:7月5日~6日

地区	田植え日	予想出穂期
広神 山田下【気象感応ほ】	5月14日	8月1日
堀之内 下新田【一般ほ場A】	5月12日	8月1日
堀之内 下新田【一般ほ場B】	5月11日	7月31日

2 出穂予想 8月1日(5月12~14日植

え) ○平年(気象感応ほ7月31日)より1日程度遅れる見込みです。

3 穂肥の施用時期・施用量

(1) 1回目穂肥時(出穂23日前)の生育のめやす

【草丈】50cm 【葉色】37.0(SPAD値)

【茎数】490本/m²(60株セットでは27本/株、50株セットでは32本/株)

(2) 穂肥の時期と施用量

	1回目穂肥	2回目穂肥
施用時期 (出穂8月1日の場合)	7月9日 (出穂23日前) 幼穂長2mm	7月18日 (出穂14日前) 幼穂長25~30mm
施用量(窒素成分)	1~1.5kg/10a	1~1.5kg/10a
魚沼ロマン有機穂肥	10~15kg/10a	10~15kg/10a
魚沼ロマン穂肥専用	8~13kg/10a	8~13kg/10a

○5月後半田植えの場合は、上記より生育が遅れているので、1回目の穂肥時は、幼穂長を確認してから施用して下さい。

○稲の生育量が大きい場合は、1回目穂肥施用時期を3~5日遅らせ、施用量は少なめにしましょう。また、葉色が濃すぎる場合は、施用を控えましょう。

○湛水状態で穂肥を施用し、肥効を高めましょう。

○2回目の穂肥は、後期栄養維持のため確実に施用しましょう。

* 過剰な穂肥施用は、玄米タンパク質含有率を高めるため基準量を守る。

4 斑点米カメムシ類の対

策

病害虫調査では、アカスジカスミカメの発生が多くなっています。農道・畦畔の草刈りや水田内雑草(ヒエ、ホタルイ)除去を徹底しましょう。